

事業の名称	「3.11伝承ロードNew Destinationプラン」～地域観光資源と震災伝承施設を融合させた新たな周遊モデル開発事業～
-------	--

名称	一般財団法人 3.11伝承ロード推進機構
----	----------------------

プランの骨子	<p>三陸沿岸道路(以下「三沿道」と言う)は宮城県仙台市から青森県八戸市に至る359kmの自動車道路で、東日本大震災の被災地を縦断することから国が復興道路として整備を進め、令和3年内に全線供用の予定である。</p> <p>この三沿道の特徴は、①東北道の八戸～仙台間の代替路となっている。②車線数は仙台市近郊50km間は4車線、残りは2車線区間となっている。③沿道には休憩施設は少なく、SAは宮城県内に2箇所、PAは全線で5カ所にとどまる。一方で沿道付近には12箇所の道の駅がある。④気候は降雪量が少なく、降雪期でも安全走行が可能である。⑤リアス式海岸を通過することから沿道随所から風光明媚な景観を楽しめる。⑥東日本大震災の津波被害が甚大となったエリアを通過する。⑦そのため、震災遺構や伝承施設が数多くあり、小中高の防災教育や修学旅行等に活用され、震災伝承のメッカとなっている。⑧三陸沖は世界三大漁場の一つであり、魚介類を中心に豊かな食文化がある。このような特徴を持つ三沿道エリアをステージとして、以下の事業を行う。</p> <p>1. 事業の目的 三陸沿岸道路沿道の観光コンテンツと震災伝承施設を融合させ、三陸沿岸地域の新たな交流人口創出に向けた未来志向の地域活性化を図る」事業で、観光事業の基盤整備、魅力度向上に寄与し、観光コンテンツと周遊プログラムの開発、担い手の「競争力」確保、「地域の持続可能性」向上、安全・安心のクオリティの向上を目的としています。</p> <p>2. 事業の内容 新たなツアールート開発に向け、より価値の高いコンテンツと周遊プログラムのあり方を模索し、持続可能な事業環境のあり方を検討しながら、官民連携による環境づくりを強化するために3つの事業を実施します。</p> <p>1) 新たな周遊ルート開発可能性調査(常態化可能なツアールートの提案) 2) モデルルートにおけるモニターツアーの実施 3) 三陸沿岸道路及び周辺エリアの魅力伝える情報発信</p> <p>3. 事業のポイント ツアールート検討にあたっては、多様な関係者(旅行業者、交通事業者、観光事業者、震災伝承施設、語り部団体、道の駅駅長、通信事業者、医療関係者、有識者等)による三陸沿岸道路エリア検討会を発足し、コンテンツ、周遊プログラム、ツアールートの検討を行う。</p>
--------	---

事業活動地域

